

名犬育成講座 11 「持って来い」

～パートナードッグクラブしつけ教室より～



「オイデ」ができるようになったら、持来のお遊び「持って来い」を教えてみましょう。

- 1** 犬がくわえやすい大きさのおもちゃ（ひも付きのものがお勧め）を用意して興味を持つまで遊ぶ。ひも付きのボールやおもちゃでひっぱりっこをする等犬に「コレが欲しい」と思わせるのがポイント
- 2** 遊びながら犬がおもちゃをくわえたら「持って」と号令をかけることを繰り返して、「持って」のコマンドを教える
- 3** そのおもちゃを放り投げる 最初は短い距離から！
「持って来い遊び」のルールをまだ知らない犬は、ボールを追いかけているうちに興奮。ボールを相手に一人遊びを始め「大事なボールを渡すなんて嫌だ！取られたらつまらない」と思い、飼い主に渡さず追いかけてもらう方が楽しくなって逃げ回るパターンにもなりやすいので要注意！
- 4** おもちゃを追いかけて行って、くわえたら「持って」・「来い」（オイデ）と声をかけてしっかり呼び戻す
- 5** 戻ってきたらたくさん褒めて、優しくおもちゃに手をかけて「出せ」（ハナセ）と声をかけおもちゃを口から離させる

■無理に犬の口からおもちゃを引き出そうとしないこと。犬はくわえている物を奪われそうになると、取られまいとかえって顎に力を入れます。ゆっくり声をかけながらフードをあげる等の工夫をして、まず犬に「くわえている物を渡したらとても褒められるしご褒美ももらえるので楽しい♪」と覚えさせて「出せ」を教えます

■犬に遊びのルールが理解できてきたら、「オスワリ」「フセ」「マテ」等の色々な号令を混ぜてコマンドの高度なバリエーションを加えながら、楽しく遊べるようになります



犬の熱中症に要注意！

暑さが苦手な犬にとって、夏場は私達人間よりももっとも辛季節。健康管理には充分注意して、この季節を乗り切りましょう。

■パットのやけど

注意したいのは日中のアスファルト。夏場は午前中でも路面温度は急上昇。特に真夏日には日が落ちてからも路面温度はなかなか下がらず、夕方の時間帯になっても、体高の低い犬にはまだまだ危険です！
散歩に行く前には、地面の温度が下がっていることを手で触って確認しましょう。

■熱中症

【症 状】呼吸が激しくなる／よだれを大量に流す。

そのまま放置すると⇒体温の上昇／脈拍の乱れ／けいれん／ぐったりするなどの症状に

【対処法】まず体を冷やすこと（水にぬらしたタオルをかけるなどの方法で体を冷やすことが先決！）但し、無理に水を飲ませようとすると、誤嚥の恐れがあるので要注意です。取り急ぎ体を冷やししながら動物病院へ連れて行きましょう。

次の犬種には、特に注意が必要です。

- ①短鼻種（パグやブル系）＝体型的に呼吸による体温調整が難しい構造になっています
- ②小型犬や体高の低い犬＝地面に近いこと／体温が上がりやすい／水分が足りなくなりがち
- ③黒い犬＝熱がこもりがちなので、白っぽい小型犬より黒い大型犬の方が熱中病になりやすい

お留守番中のペットは大丈夫？

風通しが良いように窓を開けて出掛けましょう。日が当たってなくても、部屋の温度は閉め切っていると急上昇します。換気の良い部屋で、室内を自由に移動できいつでも水が飲めるような状態にしてやりましょう。防犯上窓を開けられない場合には、ゆるめにクーラーをつけた状態で出掛けましょう。

（留守中に停電する可能性もあるので要注意！）

言うまでもありませんが、炎天下の車内での留守番は短時間でも危険です。夏場に旅行に連れて行く時は、熱中病にならないような準備と心遣いが必要になってきます。万が一何かのトラブルが起こった時には、慌てないで冷静に対処しましょう。